様式3　まとめ（自己評価および学校関係者評価）

坂戸市学校評価システム

坂戸市　小学校

令和5年度　　学校評価
自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立片柳小学校
実施日	3月1日

評価　A：よくできている　　B：概ねできている　　C：あまりできていない　　D：できていない

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え（○）	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	・様々なことに計画的に取り組んでいる。 ・新年度に経営ビジョンの説明があったため。 ○評価がBとなっているため、新年度に学校経営方針について全教職員で納得してから教育活動を進められるよう、方法を検討する。	B	・教育目標と基本理念に沿った取り組みが行われ、生き生きとした児童の成長した姿が見られた。 ・コロナ禍後の様々な行事の在り方を検討し、できることから復活させ教育活動を充実させようとしている。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	・各種避難訓練や教職員の研修を実施し、組織的に対応する体制を整えている。 ・トラブルの際、すぐに連絡をし協力的に教職員が動けているため。 ○来年も取り組みを継続していく。	A	・登下校の際、PTA・町内会・スクールガード等の見守りで学校との連絡を密にして、交通事故や不審者対応に備えている。 ・不審者対応の際はマメールを利用し、情報の共有・対応が迅速にできている。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。（共通項目）	B	・昨年度よりも勤務時間は短くなっているように感じるが、それでもなお働き方改革はあまりうまくいっていない。 ○業務を精査し効率よく仕事をしていく必要がある。業務改善について次の手を繰り出し続ける。	B	・業務多忙の中、管理職の方を筆頭に見直しが行われていること。先生方の働く姿が生き生きしていた。 ・行事の精選が行われており、また残業時間縮小のために、様々な取組が行われていることは評価できる。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。 （市共通項目）	B	・研究授業を定期的に実施した。 ・授業研究などを行い、誰でも気軽に他学年の授業を参観できる雰囲気がある。 ○学校研究の方向性を全員で納得し、自律性を保ちながら進められるようにする。	A	・タブレットやスクリーンを活用したICT活用の授業など、求められる教育活動を提供している。 ・先生方同士、学び合う機会と意識を持たれている事がこちらも学びとなる。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	・生徒指導主任を中心に、いじめ防止に対するアンテナが高いと感じる。 ・学級活動の充実を図っている。 ○学級活動については8年間行ってきた研究を継承していくことが重要。	B	・児童一人ひとりの自尊感情を育む教育が実践されていると感じる。 ・外部講師については慎重な選定をお願いしたい。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取組んでいる。 （市共通項目）	B	・進んであいさつできる児童と、できない児童のばらつきがある。 ・きまりを守ることが全体的に少しルーズになってきている。 ○ルールは絞り、きっちり守らせる。	B	・挨拶できない子が気になる。意識して、自ら挨拶するよう私自身が心掛けて挨拶していきたい。 ・あいさつをしっかりできる児童とできない児童でかなりはっきりと分かれている。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。 （市共通項目）	A	・困ったことや悩んでいることを他の先生に相談しやすい雰囲気があり、仕事を進めやすい。 ・倫理確立委員会で定期的に注意喚起している。 ○今後もこの雰囲気を大切にしていく。	A	・体罰に関するアンケートを保護者に配布し調査を定期的に行っている。 ・教職員の不祥事防止に向けて、様々な取組が実践されていることがうかがえる。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にする態度で接している。	A	・担任だけでなく、学年間や管理職、相談員を含め多くの教員で対応できている。 ・職員全体が温かい雰囲気で児童に接することができている。 ○さらに、組織的な不登校対応を進めたい。	A	・民生委員としても子供の観察をしている。 ・公開授業の際、先生方が笑顔で子供たちに話しかけ、子供たちも安心した表情で応える姿に、信頼関係が結ばれている事を感じた。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	・交流のある学級はある程度特別支援教育の視点をもっているが、さらに児童のニーズに合った教育をするために、特別支援学級の担任と連携していく必要がある。 ○校内研修の充実が必要である。	B	・パソコン等を活用し、児童の特性に合った取り組みが行われているため、生き生きとした表情で発表や活動に取り組んでいました。 ・児童のニーズに合った環境づくりを工夫している。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	・児童、教員共に清掃に力を入れている。 ・安全点検が月ごとに的確に実施され、その際の修繕などを迅速に対応してくれている。 ○今後も現在のような取り組みを継続する。	A	・当学校は災害時に地域住民の避難所でもあることから、耐震化や防災機能の強化を備えていると思う。 ・学校全体で清掃に力を入れているため、校舎内がきれいに整えられている。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。 （市共通項目）	A	・HPを新しく開設し、地域へ公開している。 ・コロナが落ち着き学校を公開する機会が戻ってきた。 ・人材バンクをデータ上でまとめたい。 ○より開かれた学校を目指し取り組みを継続する。	A	・小高交流事業など、徐々に取り組みを増やし、対外的な活動が増えてきている。 ・ホームページやマメールを利用し、情報の公開、防犯に関する情報提供をしている。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	A	・校内だけでなく、関係機関とも連携して対応している。 ・地域との連携を図り、子供の見守りなどを積極的に行っている。 ○学校応援団が自走型の組織になるよう、働きかけていく必要がある。	A	・片柳地区の生業であった米作につき、地域の方々、学校役員等の協力を得て生徒自ら水田に入り、田植えから稲刈りそして、自分たちで収穫した米を給食時食すという、社会活動体験企画は地域との関わりを含め素晴らしいと思う。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。 （市共通項目）	B	・小中で共通した取り組みや、中学校と相互に関わる取り組みについて、確認していく必要がある。 ○小中連携ではなく小中一貫の意識を持つ。また、小中だけでなく小小連携の視点が必要である。	B	・義務教育として9年間の系統連続性に配慮し、5，6年生は行事や登下校の班長等の経験を活かしリーダーシップや主体性を培っていると思う。階段式（ギャップ）の進学でなく、スロープ式（自然の流れ）の進学が理想だと思う。